

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成22年11月18日 (2010.11.18)

【公表番号】特表2007-508230(P2007-508230A)

【公表日】平成19年4月5日 (2007.4.5)

【年通号数】公開・登録公報2007-013

【出願番号】特願2006-534470(P2006-534470)

【国際特許分類】

C 0 6 D 5/00 (2006.01)

C 0 6 B 43/00 (2006.01)

C 0 6 B 31/28 (2006.01)

C 0 6 B 31/00 (2006.01)

C 0 6 B 29/00 (2006.01)

B 0 1 J 7/00 (2006.01)

B 6 0 R 21/26 (2006.01)

【F I】

C 0 6 D 5/00 Z

C 0 6 B 43/00

C 0 6 B 31/28

C 0 6 B 31/00

C 0 6 B 29/00

B 0 1 J 7/00 A

B 6 0 R 21/26

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年9月24日 (2010.9.24)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 4】

例 1 0 は、摂氏 1 0 5 度で 4 0 0 時間、わずかに 0 . 5 % だけ質量損失があるだけで熱的に安定であることが判明した。従って、例 1 0 は、本発明のガス発生剤組成物、特に本明細書で上記したポリビニルアゾールおよび相安定化硝酸アンモニウム ( 1 0 % 硝酸カリウムで安定化された ) を組み込んだ組成物の予想外の熱的安定性を示す。他の相安定化剤も、当該分野で既知または認識されているものと考えられていることは強調されるべきである。

例 1 1 ~ 1 3 は、金属酸化剤を有するポリビニルアゾールの使用を示す。ある用途では、金属酸化剤の使用が、点火性、燃焼率指数 ( burn rate exponent )、ガス発生剤燃焼率、および他の設計基準の最適化のために望ましくあり得る。例は、金属酸化物を用いれば用いるほど、燃焼後に生成するガスのモルが小さくなることを示す。